

西濃農林事務所の普及活動状況

平成30年3月31日現在

今月の重点活動

■GAP 岐阜県GAP確認制度の審査を実施

(有)JAにしみの興農社は、大垣市内で水耕レタスを生産しており、3月15日に県GAP確認制度に基づく農場審査を受けた。GAP指導員の資格を取得した普及指導員2人が審査に当たり、書類及び栽培ハウスについて手順書に基づく評価を行った。

また、神戸町下宮青果部会協議会FG水菜部会でも、3月19、20日の2日間にわたり、同様の農場評価・団体評価・施設評価が行われた。こちらも関係書類並びに出荷調製場、現地ほ場を巡回し、評価した。

審査結果は、県確認委員会で審査され、問題がなければ確認通知書が交付される。

農業普及課は、岐阜県GAP確認制度の他、認証GAPの取得を推進していく。



【岐阜県GAP確認制度審査の様子】

多様な担い手づくり

■青年農業士 西濃青年農業士オリジナル酒が完成

西濃青年農業士会員が生産したハツシモを原料として、12月から愛知県の酒造会社へ仕込みを依頼した酒が、いよいよ完成した。

味やラベルデザイン、瓶の色など青年農業士の意見を反映したオーダーメイドの酒は、生酒と火入れ酒の2種類で、「一番」と命名された。

農業普及課は、酒造会社との連絡調整や視察研修の実施など、青年農業士活動を支援した。



【青年農業士活動の証、日本酒ができました】

■女性農業経営アドバイザー 西濃ブロック総会を開催

3月9日に西濃ブロック女性農業経営アドバイザー総会が開催され、運営支援を行った。3名が退任され、併せて送別会が開催された。送別会では、これまでのアドバイザー活動の振り返りに話の花が咲き、退任者への寄せ書き作りの他、今後の活動へのエールが送られた。平成30年度は18名（H29年度は21名）で活動を行い、農業普及課は引き続き支援を行う。



【退任者を囲むアドバイザー】

■家族経営協定 2世代で家族経営協定を締結～養老町～

3月5日、養老町役場において、家族経営協定の締結・調印式が行われた。協定を結んだのは、トマト農家の親子2世代家族で、経営方針の決定は家族全員で話し合うことや就業条件、役割分担等が盛り込まれた協定書に調印した。

農業普及課とJAにしみののは調印式に出席し、立会人として協定の締結を見届けるとともに、今後の経営安定等に向けて激励の言葉を述べた。



【家族経営協定締結農家と関係者】

売れるブランドづくり

■春だいこん 目揃会が開催される

ハウスだいこんは播種直後からの低温により生育が遅れており、地上部の生育が悪く、根長が短い。牧園芸組合では例年2月中旬頃から出荷が始まるが、本年は3月からの出荷開始となっている。この度春だいこん目揃会が開催され、出荷規格の確認等が行われた。今後も2月下旬は急激に気温が上昇し、花芽の着生も確認され、今後も気温は高く推移すると予測されていることから、適期の収穫を啓発した。

トンネル栽培については、夜間の保温と日中の換気、病害虫防除の徹底について注意を促した。



【目揃会の様子】

■6次産業化 総合化事業計画認定交付式

3月14日、海津市役所において「とり沢」の奥美濃古地鶏を使用した混ぜご飯の素等の開発・製造・販売事業の6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画認定交付式が行われた。奥美濃古地鶏カレーに続く再認定となる。海津市長からは輸出にも目を向けた取り組みに期待しているとの挨拶があった。とり沢では平成30年度に県HACCPを取得する計画をしており、今後も幅広い販売先への展開が期待される。



【交付式出席者】

■GAP 神戸町営農連絡協議会でGAP導入を推進

3月7日に神戸町営農連絡協議会が開催され、神戸町内の土地利用型担い手を対象に研修会が行われた。研修会の中で、GAPの導入についての基本的な考え方や、GAP導入の意義等の説明の後、簡易なチェックリストの配布を行った。今後、チェック項目に従ってチェックを行うことで問題点や課題を洗い出すこととした。生産者らは積極的にGAPを導入したい意向を示しており、今後出てきた問題点や課題などについて情報共有や情報交換をしていくこととなった。

■トマト 海津トマト部会支部研修の開催

3月12日以降、各支部（5支部）で研究会が随時開催された。農業普及課からは、高温対策及び灰色かび病の防除について資料により説明した。さらに、各支部長からの部会GAPの取り組み進捗状況の説明後にGAPの取り組みの意義や国内の状況について、補足説明を行った。

■いちご 中間目揃会の開催及び出荷実績・病害虫発生状況等

海津いちご部会では、3月2日に中間目揃会が開催された。1番果房と2番果房が連続した分、3番果房のピークまでには収穫休みが出来ている。今後は気温が高くなる中、品質の良いイチゴを出荷するため、着色程度や規格について再確認を行った。農業普及課より過熟果対策の温度管理を中心に、病害虫防除等について説明を行った。また、3月上旬までの西濃地域のいちご出荷量累計は、前年比94%、単価は1,253円/kgで前年比98%である。3番果の出始めで、遅れていた出荷量は回復してきている。農業普及課からは、ハダニ類については引き続き発生しているほ場があり、3月中旬以降アザミウマ類の発生が目立つため、防除を呼びかけている。また、うどんこ病の発生が見られるため、特に育苗ほ場で発生していた場合は予防を強化するよう、助言を行っている。